

第8号

市柔連だより

# 健 心

題字：山田無涯 書

平成20年12月1日発行  
 発行所  
 高岡市石灘6-1 塩谷建設課内  
**高岡市柔道連盟**  
 TEL 23-4658  
 FAX 28-2755  
 編集発行  
 広報部



## 第39回全国中学校柔道大会 石川大会

平成20年8月19～22日

会場 石川県白山市松任総合運動公園体育館



### 全国大会を 通じて感じること

高岡市立芳野中学校柔道部顧問  
当連盟理事 関原 秀明

試合直前、体を小刻みに動かし、懸命に緊張感を抑えている。団体戦を控えた女子選手たち、この舞台を目指してつらい練習も乗り越えてきた。決勝トーナメントに進むにつれ、その強さから彼女たちが負けることはないのではないかとさえ思ったが、内容的には徐々に厳しい試合となってきた。準決勝の相手は優勝候補の大成中学、代表決定戦までもつれ込んだものの、判定で敗れた。敗れたとはいえ、このレベルの試合で接戦を続ける彼女たち、これまでの努力を知っているだけに心から拍手を送りたいと思った。

芳野中学校では今年度、女子団体をはじめ男女あわせて7名の個人戦出場を果たした。佐野さんは見事個人2位となった。これまで、高岡市柔道連盟や中体連の先生方に多くの援助や励ましの言葉をいただいたこと、そして一緒に練習してきた部員がいたことが大きな支えになってきたと思う。多くの人々に支えられて練習ができることをよく認識し、人間としても大きく成長してくれることを切に願っている。



第二十八回  
全国少年柔道大会出場

## 戸出スポーツ少年団員の

## 感想



## 長田聡一郎

全国大会を終えて、ぼくはいくつかの課題を見つけていました。チームが負けている時でも返されることをおそれず、技を思いきりかけるといふこと、相手が逃げてきた時に強引につかまえて相手をねじふせる力を身に付けることなどです。また、寝技の返し方もいざという時思い出せなかったこともあり、練習の大切さをあらためて感じました。他チームの気合いのすごさにもおどろきました。この教訓を次に生かしたいと思います。

## 古川耀子

一番学んだのは、感謝の心です。全国大会に出られたのは、親や監督、コーチが支えてくださったおかげです。教えてくださったおかげです。教えることをあらためて思いました。いつも相手が大きいと弱気になってしまいましたが、全国大会ではそんな気持ちをねのけてわざをかけることができうれしかったです。練習を真剣にしないとこういう大きな試合では勝てないということもわかりました。

## 荒井智裕

他のチームからたくさん学ばれました。強いチームは準備運動から声の大きさが違います。試合では相手がどんなに大きくても決してひるまないで立ち向かっていきます。絶対に勝つという気持ちで伝わってきます。ほとんどのチームが自分より何か一つ上を行っているような気がしました。ここで学んできたことを生かし、大外刈りなどをしっかり練習して、県、全国で通用するようになりたいです。

## 円城千翔

全国大会は二度目ですが、入場行進の時からどきどきしていました。去年は一本負けをしたので、今回は絶対に勝ちたいと思っていました。試合では、一本背負い、それで釣りこみ腰を一生懸命かけて攻めましたが引き分けになってしまいました。チームは負けました。ど、たくさん勉強になりました。一人の力で全国大会に出たのではなく、みんなの力があつたから出られたのだと思っています。みんなに感謝したいです。

## 川原大知

前日の合同練習の時、メダリストの横崎教子の金メダルをさわらせてもらいました。ずっしりと重く感動しました。また、全日本の先生から背負い投げの指導をしていただきました。動きに切れのある、速い、正しい背負い投げができるようこれから練習を続けていきたいです。僕たちの道場には、「感謝」と書かれた団旗がかげられています。講道館で柔道ができた感謝の心をずっと忘れないで、元気ががんばります。

## 木谷遙

一番おどろいたのは、女子選手の多いチームが県の予選を勝ち上がりこの大会に出場していたことです。また、体の小さい人でも技をかけた続け、体格の全然違う人と引き分けた試合もありました。戸出は富山県では一位でしたが、全国では勝てませんでした。でも、来年はまたこの講道館に来て、一回でも勝つことができるように、一生懸命に練習を続けたいと思います。



## 北京オリンピックに

参加して

中田中学校卒 東海大学四年生  
土倉 慶 太

私は東海大学の先輩である塚田真希先輩の付き人として北京オリンピックに同行させていただきました。塚田先輩のオリンピック出場が決まっていたからは塚田先輩の合宿にも一緒に同行し、練習に励みました。

私の役割は塚田先輩の最大のライバルである中国の佟文選手になりきることでした。中国選手になりきるため、塚田先輩と何度もビデオ研究を行いました。北京入りしてからは、



試合に向けて毎日調整練習を行いました。塚田先輩と練習を行っていた試合が近づくにつれて、日に日に調子が上がってきているのがとても伝わってきました。

試合当日、塚田先輩はとても調子がよく絶対に勝てると思えました。決勝戦まで順調に勝ちあがり、決勝戦の相手は予想通り塚田先輩のライバルである中国の佟文選手でした。試合は塚田先輩のペースで先にポイントをリードしました。研究通りに相手を封じ完璧な試合内容でしたが、試合終了のラスト8秒前に前に出た所を相手に投げられてしまい逆転負けしてしまいました。

試合が終わり塚田先輩の顔を見ると、とてもスッキリと爽やかな表情をされていました。その瞬間、塚田先輩は自分の力を全て出し切ったというのが伝わってきました。今回試合には負けてしまいましたが、塚田先輩の前に前に行き柔道を見て、自分自身参考になったし、それ以上に多くの感動をもらいました。このような感動を与えてくれた塚田先輩に感謝し、塚田先輩の前へ出るという柔道のスタイルを見習って、これからも柔道を続けていきたいと思えます。

## ワンポイントレッスン

## 袖口の握りの反則

① 相手の袖口をしぼって握る



③ 相手の袖口に触れて握る



② 相手の袖口に指を入れて握る



④ 相手の裾に指を入れて握る







北信越大会後、他のチームとの交流懇親会



7月26日 北信越交流大会会場前にて



秋季練成大会低学年櫻心塾優勝

平成20年9月21日  
秋季練成大会  
高学年さくら柔道塾優勝

## 告知板

1月4日(日)	稽古始め	高岡武道館
1月12日(月)	役員会	ニューオータニ
1月18日(日)	正気館柔道大会	
3月1日(日)	中学校昇級審査会	
3月1日(日)	全国少年柔道大会富山県大会	
3月22日(日)	高岡市柔道連總會	

## 編集後記

今回は、この夏の小学生、中学生の活躍を取り上げました。作文からは、子どもたちの心だぶまで、熱い思いが伝わってきました。「感謝」といふ言葉の多さも驚きました。技術の向上だけでなく、心も健やかに成長していることをうれしく思います。

理事 高松 毅



男子の部 芳野中学校準優勝



女子の部 芳野中学校優勝

11月16日 アルビス小杉総合体育センターにおいて  
第三十回 富山県中学校選抜柔道大会

## 追悼

本紙「健心」の表題文字をお書きいただいた、山田無涯先生が去る11月19日ご逝去されました。ここに謹んで追悼の意を表します。